

『平和と核軍縮』誌と長崎大学（片峰茂・長崎大学前学長）[要旨]

長崎大学が創刊した『平和と核軍縮』誌（J-PAND）は、理論的・実践的研究を通じて核軍縮をめざす本学の長年の取り組みの一環に位置づけられる。1945年8月9日に本学の前身である長崎医科大学は原子爆弾によって壊滅したが、新制の長崎大学として復興を果たす中で、核兵器廃絶と世界平和が教育・研究の共通の目標となった。1962年に創設した原爆後障害医療研究施設（原研、現「原爆後障害医療研究所」）は、半世紀以上にわたる、被爆者に現れた白血病やがんなどの後障害の研究を通じて、被爆者の健康管理に大きな貢献をするとともに、核兵器の究極の非人道性を示す科学的根拠を提供し続けてきた。

2012年には、核兵器廃絶研究センター（RECNA）を開設し、それまで手薄であった社会科学的研究取組みを開始した。RECNAはそれ以後、「北東アジア非核兵器地帯設立への包括的アプローチ」と題する政策提言の発表、「北東アジア非核化専門家パネル」の設置、若い世代に対する教育など、さまざまな活動を進め、世界に認知される存在となっている。RECNAの編集によるJ-PANDの創刊は、こうした流れの中で、核軍縮に関わる世界の研究者等に情報発信や議論の場を提供する学術プラットフォームの創出を企図したものである。北朝鮮による核開発や米核戦略の変化などにより、北東アジアでの核戦争のリスクが高まる中、J-PAND創刊の意義は大きい。

本メッセージとJ-PAND創刊号を、長崎大学学長を務め（1988-92）、退官後は平和運動のリーダーとして活躍した土山秀夫博士に捧げたい。核軍縮に向けた「情」と「理」の必要性を訴えた土山氏の遺志を引き継ぎ、J-PANDが大きく発展することを期待したい。